

C. ビジネス日本語向上のための社内整備 (前半)

2021年6月

日本貿易振興機構 (ジェトロ)

本資料について

○ジェトロでは高度外国人材活躍推進プラットフォームの一環として「高度外国人材の育成定着に向けた講習会」を実施しました。

○同講習会は3種の講座によって構成・実施しました。本資料は、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）に委託の上で実施された「C. ビジネス日本語向上のための社内整備」（実施日：2020年10月28日および2020年12月2日）に関する講義資料を編集・抜粋の上、公開するものです。

利用について

- ✓ 本講義は高度外国人材を採用した企業において、人事・現場の担当者が
**「高度外国人材の日本語の能力を把握し、
向上させるためにはどうすればよいか」**
を習得・実践することを目的に開講いたしました。
- ✓ 本資料の著作権はジェトロに帰属します。

✓ 免責事項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供に心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

1.3 ブレイクアウトセッション①

【自己紹介】10分

※ズームの表示名は、ひらがなで

- (1) 会社名・お名前
- (2) 会社の事業概要
- (3) 自社外国人数・国籍
- (4) いつから外国人材を受け入れているか
- (5) 外国人材の担当業務

1.4 ブレイクアウトセッション②

【期待する日本語力】15分

※全体セッションでの発表者を決めて下さい。

※各自で発表し、お互いに質問し合ってください。

- (1) 自社の外国人材に望む日本語力はどの程度？
- (2) その理由
- (3) 日本語力以外の力との関係

1.5 全体共有

各グループで出た主な例を発表して下さい。

- (1) 自社の外国人材に臨む日本語力
- (2) その理由

1.6 本研修の到達目標

- (1) 日本語学習の目的や達成レベルが明確になる。
- (2) 外国人材と目標を共有できる。
- (3) 日本語教育機関に説明できる。



外国人材が職場で必要となる日本語Can-doリストを作成する。



1.7.1 研修内容

<1日目>

1. 「現状把握と目標の共有」
2. 「日本語能力試験(JLPT)で測る日本語能力とは」
3. 「外国人が学ぶ仕組み」
4. 「Can-doリストとは」



1.7.2 研修内容

< 中間課題 >

自社の外国人材が、日本語を必要とする場面の洗い出し



1.7.3 研修内容

<2日目>

- 1.ワークⅡ 「日本語使用場面」
- 2.ワークⅢ 「Can-doリスト作成」
- 3.ワークⅣ 「Can-doリスト発表」
- 4.講義Ⅳ 「やさしい日本語」

1.7.4 研修内容

<講師>

- (1) ファシリテーター: 国際協力推進部長 長山 和夫
- (2) 講師・ファシリテーター: 主任日本語講師 大石 寧子
- (3) 講師: 主任日本語講師: 五十嵐 洋子
- (4) 講師: 日本語講師: 木戸 恵子
- (5) 講師: 日本語講師: 小島 知佳

2. 日本語能力試験 (JLPT) で測る 日本語能力とは

講師：日本国際協力センター (JICE)

日本語講師 小島 知佳

日本語能力試験 (JLPT) とは

日本語能力試験 (JLPT) とは

出典 : 日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.jlpt.jp/>)
日本語能力試験公式問題集 第二集



Japanese Language Proficiency Test

- 実施の経緯: 日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育協会(現日本国際教育支援協会)が1984年に開始
- 対象: 日本語を母語としない人 ※国籍関係なく受験可能
- 受験者数: 開始当初は全世界で7,000人ほどだったが、2018年より全世界で約100万人にのぼる
※世界最大規模の日本語の試験
- 受験目的: 実力の測定、進学、就職、昇給・昇格、資格認定への活用、出入国管理上の優遇措置を受けるときのポイント取得(高度人材ポイント制への加算)等

実施されている国・地域と実施時期

出典：日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.jlpt.jp/>)

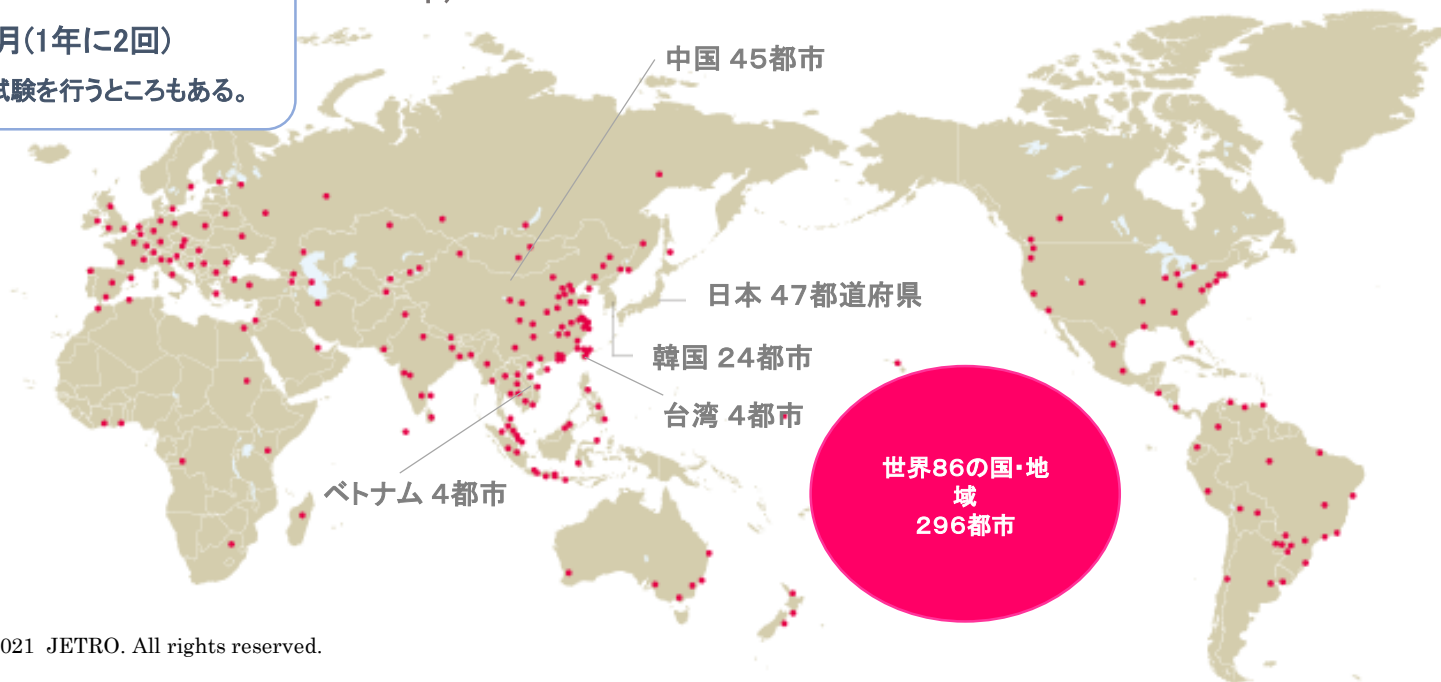
実施時期

7月と12月(1年に2回)

※1年に1回だけ試験を行うところもある。

日本語能力試験の実施都市(2018年)

● 実施都市



2.3.1



認定(合格)の目安

出典 : 日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.jlpt.jp/>)



日本語能力試験(JLPT)には5つのレベルがある。N1が最も難しく、N5が最も易しいレベル

レベル	認定の目安 各レベルの認定の目安を【読む】【聞く】という言語行動で表す。 この表には記述していないが、それぞれの言語行動を実現するための、文字・語彙・文法などの言語知識も必要
N3	日常的な場面で使われる日本語を、ある程度理解することができる
N4	基本的な日本語を、理解することができる
N5	基本的な日本語を、ある程度理解することができる



認定(合格)の目安

出典 : 日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.jlpt.jp/>)

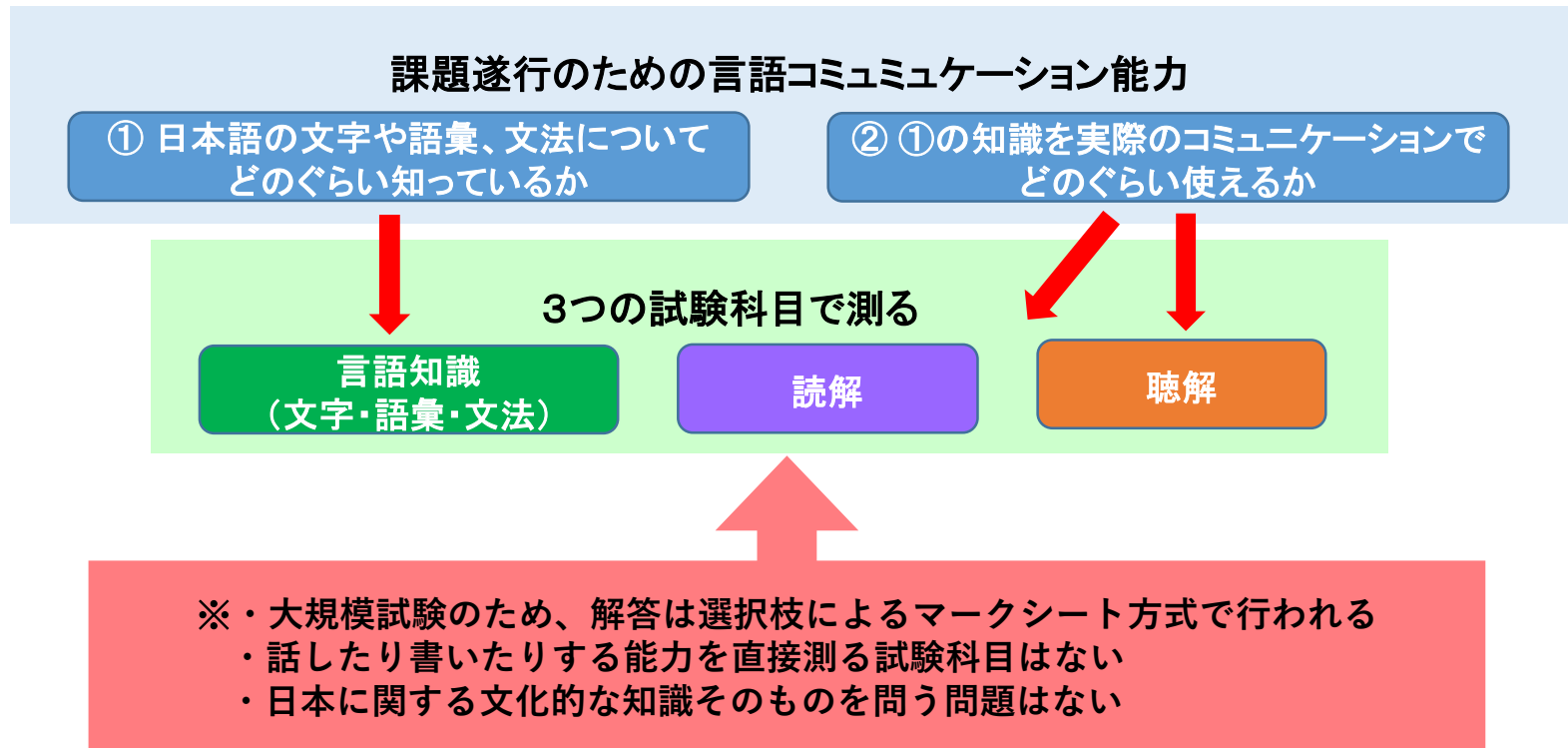
レベル	認定の目安 各レベルの認定の目安を【読む】【聞く】という言語行動で表す。 この表には記述していないが、それぞれの言語行動を実現するための、文字・語彙・文法などの言語知識も必要
N1 	<p>幅広い場面で使われる日本語を、理解することができる</p> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 <p>【聞く】</p> <p>幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>
N2 	<p>日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語を、ある程度理解することができる</p> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。 一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 <p>【聞く】</p> <p>日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>

高度人材ポイント制への加算

N1合格者 15ポイント
N2合格者 10ポイント

日本語能力試験(JLPT)が測る日本語能力とは

出典：日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.jlpt.jp/>)



2.6



認定率(合格率) ※国内・海外合計

出典 : 日本語能力試験公式ウェブサイト
(<https://www.ilpt.jp/>)

	N1	N2	N3	N4	N5
2019年7月	29.30%	36.00%	39.40%	32.70%	47.60%
2019年12月	30.80%	35.80%	33.60%	30.30%	41.90%
2018年7月	33.30%	38.40%	38.00%	33.00%	49.80%
2018年12月	29.20%	35.70%	35.10%	35.00%	45.50%
2017年7月	33.80%	43.90%	37.60%	37.70%	54.20%
2017年12月	31.50%	35.50%	37.80%	33.90%	49.00%

合否の判定

- ① 総合得点が合格に必要な点(=合格点)以上
- ② 各得点区分の得点が、区分ごとに設けられた合格に必要な点(=基準点)以上

※一つでも基準点に達していない得点区分がある場合は、総合得点がどんなに高くても不合格になる

日本語能力試験(JLPT)以外の日本語検定

BJTビジネス日本語能力テスト

出典:BJTビジネス日本語能力テスト公式ウェブサイト
(<https://www.kanken.or.jp/bjt/>)

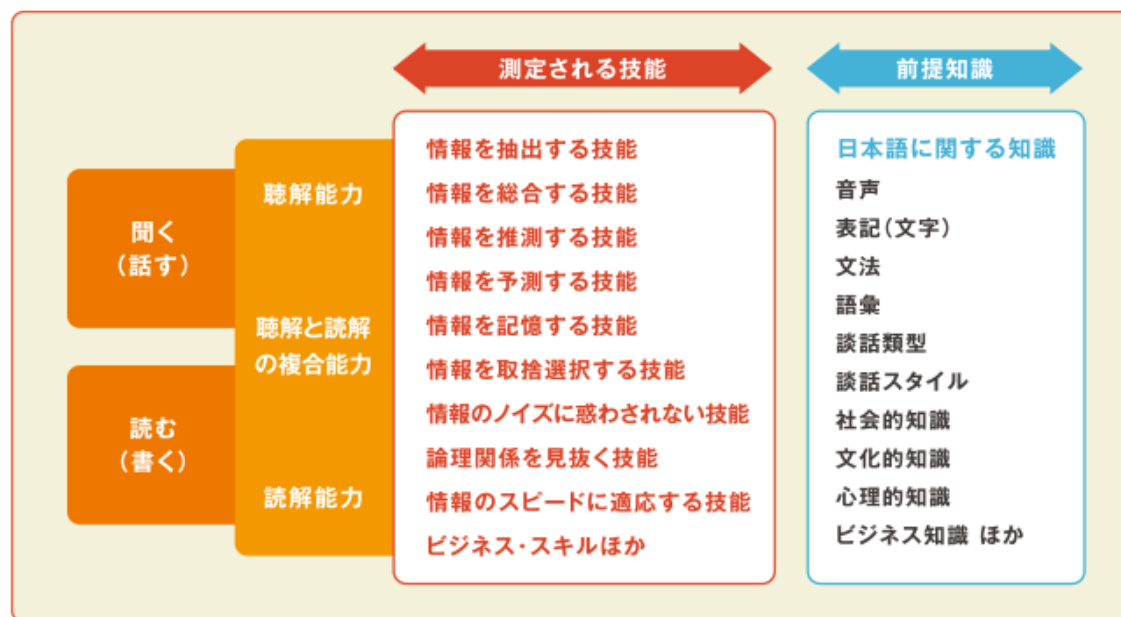
- 実施の経緯: ビジネスの場面で必要とされる「日本語コミュニケーション能力」を測定し認定するテストとして、1996年に日本貿易振興機構(JETRO)が実施を始め、2009年からは日本漢字能力検定協会が事業を継承し実施
- 対象者: 主に日本語を母国語としないビジネスに関係する人々や学生 **※受験するための資格や制限はない**
- 実施日時・会場: ほぼ毎日実施。都合に応じて日時と会場(テストセンター)が選べる * 日本国内34都市 海外17の国
- 実施方法: テストセンターでコンピュータを使って解答する、CBT(Computer Based Testing)方式のテスト
- テストの構成: 聴解テスト、聴読解テスト、読解テストの大きく3つのパートで構成
※話したり書いたりする能力を直接測るパートはない
- 志願者数: 2016年度の志願者数は6,611人
- 受験目的: 就職・転職の際、客観的な日本語能力の証明とするため、今後の日本語学習に役立てるため・自己啓発・レベルチェック 等 **※法務省入国管理局から証明基準として認められている**
- 可否の判定: 結果は「合格／不合格」ではなく0～800点の点数(スコア)と、点数に応じたJ5～J1+の6段階のレベルで評価される

2.7.2 BJTが測定する能力の対象

BJTビジネス日本語能力テスト

出典：BJTビジネス日本語能力テスト公式ウェブサイト
(<https://www.kanken.or.jp/bjt/>)

BJTが測定する能力の対象



2.8 「JLPTで測れる日本語の力」とは

出典 :BJTビジネス日本語能力テスト公式ウェブサイト
(<https://www.kanken.or.jp/bjt/>)

測れる力

全問マークシート方式によって測る
読む力および聞く力
日本語に関する知識や運用力

測れない力

書く力 話す力

コミュニケーション能力

実際の場面での運用力

日本に関する文化的な知識

ビジネス日本語能力

3. 外国人が日本語を学ぶ仕組み

講師： 日本国際協力センター（JICE）
日本語講師 木戸 恵子

内容

3.1 外国人が日本国内の企業に就職するまでのルート

3.2 日本国内とベトナムの日本語学校(概要の比較)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1) 日本語学校の特徴 | 2) 申し込み・入学試験 |
| 3) 学習内容・初級レベル | 4) 学習内容 中級レベル |
| 5) 学習内容 文化 生活指導など | 6) 授業時間の概数 |
| 7) 日本語教師 | 8) 日本人教師とベトナム人教師の役割分担 |
| 9) 学習者の環境 | 10) 学習環境の変化 |

3.3 日本語初級・中級レベルで勉強できること・難しいこと

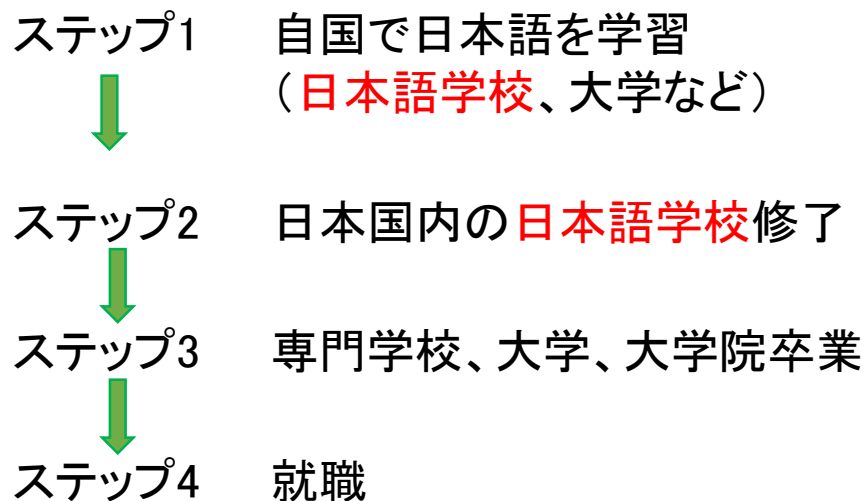
3.4 まとめ

Copyright (C) 2021 JETRO. All rights reserved.

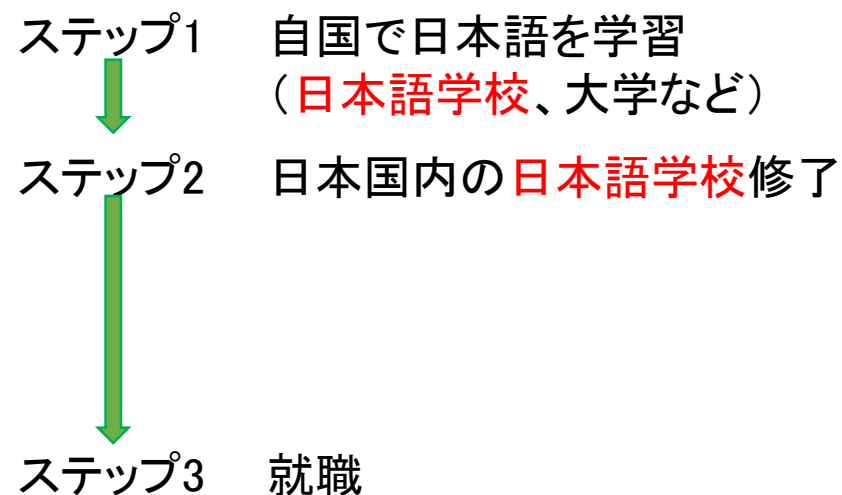
3.1 外国人が日本国内の企業に就職するまでのルート

外国人が日本国内の企業に就職する一般的なルート例

例1



例2



3.2 日本国内とベトナムの日本語学校

1) 日本語学校の特徴

ベトナムの場合、学習目的別に日本語学校が特徴付けされている。

	日本	ベトナム
学生の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・進学(大学院、大学、専門学校) ・就職 ・日本語力の向上 ・その他(教養として) 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学希望(大学院、大学、日本語学校、専門学校) ・JLPT N2取得希望 <ul style="list-style-type: none"> → 現地日系企業、日本国内企業に就職するため ・ITなどの技術者として就職希望 ・日本での技能実習希望 ・その他(教養として、社内研修など)
応募者	<ul style="list-style-type: none"> ・高校～大学院卒業、社会人、定住者などの家族 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校～大学卒業、社会人など

2) 申し込み・入学試験

	日本	ベトナム
申し込み	<ul style="list-style-type: none"> ・留学エージェントを通して ・個人で 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で ・技能実習送り出し機関を通して ・勤務先の会社が申し込む(社員研修など)
入学試験	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査 ・筆記試験 ※ →日本語力のレベル判定のため ・面接試験 ※ <p>※学校、日本語のコースによっては、面接、筆記試験は実施しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査 ・筆記試験 ※ →留学希望者、日本語を既に学習している人などの日本語力などのレベル判定のため ・面接試験 ※ →学生本人だけではなく、親との面接もある場合がある 主に留学、技能実習希望者などに実施 <p>※学校、日本語のコースによっては、面接、筆記試験は実施しない。</p>

3) 学習内容 初級レベル

	日本	ベトナム
内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基本的な文法、語彙、日常会話 （易しいものから順に学ぶ） ▪ ひらがな、カタカナ ▪ 漢字（約350字） ▪ JLPT受験対策（N5、N4） 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基本的な文法、語彙、日常会話 （易しいものから順に学ぶ） ▪ ひらがな、カタカナ ▪ 漢字 ▪ JLPT受験対策（N5、N4）
例	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 簡単で短い文を作り、話す 例 家族と東京に住んでいます。（自分についての説明） 体の調子が悪いですから、はやく帰ってもいいですか。（相手へ許可を求める） ▪ 簡単な漢字 日常生活でよく使う漢字の読み方・書き方 → 漢数字、日曜日～月曜日、食べる、飲む、話す、など 	

4) 学習内容 中級レベル

	日本	ベトナム
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能 ・漢字(約1000字) ・JLPT受験対策(N3、N2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能 ※「書く」「聞く」は学習時間が少ない → 日本人教師や教材の不足のため ・漢字 ・JLPT受験対策(N3、N2)
例	<ul style="list-style-type: none"> ・やや抽象的、一般的、公的な話題について、文や段落を作り、話す 例 この会社で外国人が占める割合は20%です。 例 東京の都心に住んでいる限りは、車は必要ないだろう。 ・トラブルにあったとき、詳しい説明を聞きたいときなどの場面における会話 ・熟語の習得、漢字 例 避難 都市 生産 共通点 相違点 	

5) 学習内容 文化 生活指導など

	日本	ベトナム
文化 ・ 生活 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化紹介 例 書道、華道、茶道、浴衣体験 ・日本で必要な生活上のルール 例 ゴミの分別 自然災害への備え 時間厳守、 遅刻、無断欠席、カンニングを注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化紹介 例 書道、折り紙、盆踊り、浴衣体験 ・日本から来た、大学生やボランティアグループとの交流(1、2回/1年) ・日本企業で働くためのマナー 例 時間厳守、信頼関係などの重要性を説明
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導 志望校選定、願書添削、面接練習 ・就職活動指導 就職フェアの紹介、履歴書添削、 面接練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導 日本の学校を紹介 就職指導 大学では、日系企業を招いて企業説明会を行う大学もある

6) 授業時間の概数

	日本	ベトナム
授業時間	<ul style="list-style-type: none"> ・週5日 ・1コマ45～60分 ・3～4コマ/1日 ※760時間/1年以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・週5日 ・1コマ45分 ・6コマ/1日 ・夜間コース 週3回 2コマ/1日
初級学習期間	9ヶ月～1年程度	1年程度
中級学習期間	9ヶ月～1年	1年程度

7) 日本語教師 ※下記の経歴のどれかを有していることが教師の条件

	日本	ベトナム
経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人(主流) 大学・大学院で日本語教育専攻 日本語教師養成講座修了 日本語教育能力検定試験合格 ※短大卒業以上の学歴が求められる ・日本語を母国語としない教師(少数) 日本の大学院で日本語教育専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム人(主流) ベトナム国内の大学で日本語を専攻 日本に留学経験がある JLPT N2合格以上 元技能実習生 ・日本人(少数) 左記の日本国内と同じ
経験	<ul style="list-style-type: none"> ・教授経験年数の幅が広い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム人、日本人ともに比較的教授経験年数が短い教師が多い

8) 日本人教師とベトナム人教師の役割分担

	日本	ベトナム
役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人教師、日本語を母国語としない教師間での役割分担はなし <p>※授業は、日本語のみで展開する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム人教師と日本人教師の間で役割分担がなされている場合が多い <p>ベトナム人…文法、ことばの説明、ドリル練習</p> <p>日 本 人…会話練習、作文指導</p> <p>※1人の学生が日本人教師による授業を受けるのは週に2, 3コマ程度</p> <p>日本人教師は日本語を用いて指導する</p>

9) 学習者の環境

	日本	ベトナム
クラス人数	<ul style="list-style-type: none">・20人以内/1クラス	<ul style="list-style-type: none">・10人前後～40人程度※小規模のクラスは少ない
学習環境	<ul style="list-style-type: none">・月曜日から金曜日までの午前あるいは午後のどちらかの時間帯に通学・日本語に接する機会が多い・空き時間にアルバイト(コンビニ、飲食店、弁当工場、流通など)	<ul style="list-style-type: none">・月曜日から金曜日(土曜日)までの午前あるいは午後のどちらかの時間帯に通学(または寮やアパートで合宿生活)・会社員、大学生は夜間、週に3回程度通学・日本語に接する機会がとて少ない

10) 学習環境の変化

日本国内、ベトナムともにICTの活用により、学習者が選択できる学習機会が増加

例 ライブ型のオンライン授業

オンデマンド型の学習(インターネットで教材配付→各自で学習)

長所 ・教師不足の改善

・様々な日本語教材の入手が可能(特にベトナム)

・日本語に接する機会が増え、学習進度が加速

短所 ・オンデマンド型の学習は「いつでも」「どこでも」でき、学校側が期待している程、利用されていないという状況も確認

3.3 初級・中級クラスでできること 難しいこと

1) できること

- ・基本的な文法、ことばを覚えること
- ・基本的な日常会話ができるように練習すること(シミュレーション)
- ・比較的簡単な読み物を読むこと、そして、文章を書く練習
- ・JLPTの受験勉強

ベトナムでは現地日本企業や日本で就職するにはJLPT・N2が条件と考えられ、JLPT対策コースに大学生や社会人が集まる

2) 難しいこと

- ・相手をより意識した言語活動をするための練習

(行動につながる実践的な日本語運用練習)

(職場で〇〇を使いたい) 「〇〇、ありますか。」

→「はい、あります。」(この地点で会話ストップ)

→「はい。いくつ必要ですか。」(次の行動につながる)

- ・就労の現場で必要とされる専門用語(原材料名、部品、動作など)や表現を覚えること

(業種や企業によって、現場で頻繁に使われる用語や表現が違い、また、学生の希望業種が一律ではないため)

3.-4 まとめ

- 1 初級・中級レベルの日本語の授業では、日本国内でもベトナムでも 学習内容はほぼ同じである。
- 2 しかし、教師の経歴、ベトナムで入手可能な日本語教材が限定的であることを考えると、日本国内とベトナム国内における日本語教育には、量的、質的に差がある。
- 3 初級・中級レベルは日本語の基礎的な文法や語彙を学び、運用練習を繰り返す行う段階であり、日本で就労するために必要な日本語は、授業ではなかなか取り入れられていない。

4. Can-do (できるようになること) リスト とは

講師： 日本国際協力センター (JICE)

主任日本語講師 大石 寧子

4.1 日本語教育とは

- 1) 外国語としての日本語
日本語教育と国語

- 2) 目的別の日本語教育
 - ①留学生のための日本語
 - ②生活者のための日本語
 - ③就労のための日本語
 - ④子供のための日本語
 - ⑤難民のための日本語
 - ⑥海外での日本語

3) 授業を構成するもの

- ①レベル： 初級、初中級、中級、中上級、上級
- ②習得するもの： 四技能(話す、聞く、読む、書く)
 - ・日本語教育文法・文型
 - ・運用力(四技能) 例：「話す」の1例 → やりとり(会話)
 - ・日本の文化・習慣、日本人の考え方、マナー、常識 など
 - ・ひらがな→カタカナ→漢字
- ③評価方法： 試験、作文、発表 など
- ④指導法： チームティーチング、1人の講師によるもの
直接法、間接法
- ⑤教授法： ニーズに合わせて
- ⑥授業形態： クラスワーク、個人授業
- ⑦日本語教師： 日本語教師養成コース(420)修了者、日本語教育能力試験合格者
大学での主選考・副専攻、ボランティア
経験年数
- ⑦受講者情報： レディネス・ニーズ調査
- ⑧事前準備： チーム、個人

4) 目的に合わせて

① 到達目標

カリキュラム

シラバス(学習項目)

指導法

評価

② 運用力(話す、聞く、読む、書く)

4.2 就労のための日本語

- 1) ビジネス日本語 → 就労のための日本語
- 2) 業務遂行でできるようになること
(Can-do)の場面
 - ①共通のもの： 総務・人事・労務的なもの
例： 入社の手続き
伝達事項(お知らせ的なもの)
 - ②部署によって異なるもの

3) 授業の展開

目標: 職場の各場面で業務遂行ができる

① 課題達成型の授業展開

文法 く 場面

② 課題を遂行するための職場文化・慣行の理解と実践

4) できるようになることの取り出し方

例①

健康・安全に暮らす→健康を保つ→医療機関で治療を受ける

→適切な医療機関の選択をする→ 医療機関で治療を受ける

→ 適切な医療機関の選択をする

- ・隣人に容態を伝えて助言を求める
- ・問診表に記入する → **初診受付で手続きする**
- ・医者の説明・指示を理解し、応答する
- ・薬を利用する など

事例1 (上位項目)		能力記述	場面			やり取りの例	機能	文法	語彙	4 技能				
事例2 (下位項目)	場所		相手	状況・動機	話す					聞く	読む	書く		
0102 問診票に記入する														
0102010 ★ 初診受付で手続をする	<ul style="list-style-type: none"> 初診であることを伝えることができる 保険証についての質問が理解できる 問診票の記載事項が理解できる 問診票などに住所、氏名、症状などを記入することができる 	病院 診療所	病院の受付	初めて行った病院で診察の手続をする	<p>A 1: あおう、初めてなんですが。</p> <p>B 1: 初診ですね。こちらの間診票に記入してください。</p> <p>B 1: 保険証はありますか。</p> <p>A 1: (記入事項について) ここには何を書くんですか。</p> <p>A 1: (記入事項について) これはどういう意味ですか。</p>	<p>注目要求 情報提供 単独行為要求</p> <p>情報要求</p> <p>情報要求</p> <p>情報要求</p> <p>動詞 ある (所有) 終助詞 か (疑問) 指示詞 ここ (場所) 指示詞 何 (疑問) (種別) 格助詞 を (対象) 指示詞 これ (眼前指示) どう (疑問)</p>	<p>間投詞 あおう (呼び掛け)</p> <p>副詞+なので (説明)</p> <p>終助詞 ね (確認)</p> <p>指示詞 こちら (場所)</p> <p>格助詞 に (場所)</p> <p>動詞形+ください (指示)</p> <p>取り立て助詞 は (提題)</p>	<p>あおう</p> <p>初めて</p> <p>初診</p> <p>こちら</p> <p>問診票</p> <p>記入する</p> <p>保険証</p> <p>ここ</p> <p>何</p> <p>書く</p> <p>これ</p> <p>どう (疑問)</p> <p>意味</p>	○	○	○	○		

『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」P14-15

平成22年度5月19日 文化審議会国語分科会

例②

消費活動を行う→物品購入・サービスを利用する

→商品の機能や値段を尋ねる

小分類												
事例1 (上位項目)												
事例2 (下位項目)	能力記述	場面			やり取りの例	機能	文法	語彙	4技能			
		場所	相手	状況・動機					話す	聞く	読む	書く
0801140 ★商品の機能や値段を尋ねる	<ul style="list-style-type: none"> 商品の機能を尋ねることができる 商品の値段を尋ねることができる 	靴屋	販売員	マラソンをするのに適当な運動靴を買いたい	A1: マラソン用の運動靴はどれがいいですか。 B1: これはいかがですか。軽くていいですよ。 A1: 履きやすいですね。これはいくらですか。 B1: 9,000円です。 A1: じゃ、これをください。	情報要求 単独行為要求 (勧告) 意思表示 情報要求 情報提供 談話表示 単独行為要求 (依頼)	運体修飾 ~用 (使用目的) 名詞修飾 の 取り立て助詞 は (提題) 指示詞 どれ (疑問) 格助詞 が (総記) 終助詞 か (疑問) 形容詞テ形 終助詞 よ (主張) 動詞マス形+形容詞やすい 終助詞 ね (確認) 名詞、形容詞+です 格助詞 を (対象)	マラソン ~用 運動靴 どれ いい これ いかが 軽い 履く ~やすい いくら ~円 じゃ ください	○	○		

『生活者に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』P34-35
平成22年度5月19日 文化審議会国語分科会

中間課題について

- ・各自の職場で外国人材が“日本語を必要とする”場面の洗い出し